

大学名： 奈良教育大学

ASPUnivNet の 4つの機能	評価項目	事例記述
学校のユネスコスクール加盟を支援します。	1. ユネスコスクール加盟を希望する地域の学校から相談があったときにそれに応じることができた。	広陵町立真美ヶ丘第2小学校に対して、ESDを核とした学校経営についてアドバイスすると共に、今後の研修計画を相談した。
	2. ユネスコスクール・チャレンジ期間実施校に対する相談に応じることができた。	天理市立福住小中学校において、ESDティーチャープログラムとしてESDに係る研修会を5回実施し、小中学校教員19名全員にESD学習指導案の作成を課した。作成された学習指導案を大学で審査し、全員に学長よりESDティーチャーの認定証を授与した。
	3. 地域の加盟済のユネスコスクールに向けてESD/SDGsをリードする学校としての「質の向上」にかかわる支援を行うことができた。	8月26日に橋本市立高野口小学校においてESDをテーマとした校内研修を実施した。附属幼稚園・小学校・中学校の希望する教員を対象にESDティーチャープログラムに係る研修会を5回実施した。
大学の持つ知的財産をユネスコスクールの活動に提供します。	1. 大学の資源を活用して、地域のユネスコスクールに向けた支援(資料提供やコーディネート、出前授業やワークショップなど)を行うことができた。	奈良教育大学附属中学校の「奈良めぐり」などのESD授業実践に出前授業など、能動的に関わった。奈良県立高田高校、五條高校及び添上高校においてSDGsに関する出前授業を行った。
	2. 研修会やワークショップを地域のユネスコスクールと協働して開催することができた。	奈良ESD連続セミナーをオンラインで11回開催した。奈良県立万葉文化館と連携した授業づくりセミナーを対面で5回実施した。
	3. 大学の資源を活用して、地域のユネスコスクールと協働で教材やモデルプロジェクトを開発することができた。	奈良商工会議所や地域の企業と連携し、歴史文化遺産を通じたESDである奈良新しい学び旅を企画・運営し、奈良県観光局の助成金を得ながら、30校ほどの学校を対象に、東大寺や奈良のシカ、春日山原始林などの文化遺産を通じたESDを展開した。
地域の教育機関とユネスコスクールとの連携を促進します。	1. 地域のステークホルダーにユネスコスクールの存在や意義について広く知らせることができた。	近隣のユネスコスクールの教員に参加を呼びかけ、森と水の源流館と連携した授業づくりセミナーを5回開催した。森と水の源流館では、参加した教員との連携関係を維持し、出前授業などを行うようになった。
	2. ユネスコスクールと地域の多様なステークホルダーとを結びつけることが	橿原市立耳成南小学校と橿原市立昆虫館、及び、森と水の源流館をオンラインでつなぎ、2年生の生活科の授業実践を支援した。

	<p>できた。</p> <p>3. ユネスコスクールに関連した地域教育委員会との連携や地域における大学間の連携を促進することができた。</p>	<p>12月25・26日に近畿ESDコンソーシアム成果発表会をハイブリッドで開催し、4つの小・中学校の児童生徒が活動報告を行ったほか、24本の実践発表・意見交流会を行い、150名の参加者を得ることができた。</p> <p>奈良市教育委員会の2月18日のオンラインリレー講座で講師を務め、地域遺産を教育的に活用した世界遺産学習について講義を行った。</p> <p>8月26日に田辺市教育委員会においてSDGsの理解促進を目的とした研修会を実施した。</p> <p>奈良市が主催する「あつまれ ECO キッズ！」において審査員をつとめたほか、12月18日の表彰式では学生がブース展示を行った。</p> <p>奈良県教育委員会と連携しへき地教育部会を8回開催し、へき地の教員を対象とした研修会をオンラインで3回実施した。</p>
<p>国内外のユネスコスクールとのネットワークづくりを支援します。</p>	<p>1. 地域をこえた国内外の多様なステークホルダーにユネスコスクールの存在や意義について知らせることができた</p> <p>2. 地域をこえた国内外のユネスコスクールと協働で活動することができた。</p>	<p>12月4日に駐日イスラエル公使であるバラク・シャイン氏が本学を訪問された。その際、ユネスコクラブの学生も参加し、活動を紹介したり、イスラエルの教育事情を教わるなど、交流することができた。</p> <p>2月11日に屋久島でオンライン開催された世界遺産学習全国サミットにおいて、歴史文化遺産を活用したESDについての事例発表を行った。</p> <p>11月10日にオンラインによる図書館総合展において、「SDGs入門から探究・発信まで 拠点としての大学図書館」をテーマとした発信を行った。</p> <p>8月25日にオンラインで開催された世界遺産アカデミーにおいて、文化遺産を通じたESDについて発信した。</p> <p>学ぶ喜び・ESD 連続公開講座をハイブリッドで5回開催した。</p> <p>北陸ESDコンソーシアム及び信州ESDコンソーシアムの外部評価委員として、成果発表会にオンラインで参加し、意見交流することができた。</p> <p>2月19日・20日にオンラインで開催されたユネスコクラブ全国サミットに企画参加し、玉川大学ユネスコクラブと交流することができた。</p> <p>山形市、福岡市、大牟田市、那覇市において、ESDティーチャープログラムを実施し、各地でESDを自主的に研究する組織づくりを支援した。</p> <p>ユネスコ未来共創ダイアログで「企業との協働」をテーマに、奈良新しい学び推進協議会に関する発信を行った。</p> <p>環境省近畿地方事務所の依頼を受け、脱炭素社会の実現をテーマとした分科会『学び合いプロジェクト』を9回開催し、ESD 推進ネットワーク全国フォーラム2021において発表、及びパネルディスカッションを行った。</p>

	<p>3. ユネスコスクールがグローバルな活動することについてそれを支援することができた。(例：ユネスコスクールの国境を越えた交流、海外とのオンライン交流、海外のプロジェクトへの参加など)</p>	<p>ユネスコが実施したCC4SDに参加し、12名の学生がフィリピンの12名の学生と6チームを形成し、それぞれがオンラインで協力してESDの授業を作成し、実際に小中学校で授業実践を行うことができた。第22回日中韓環境教育ネットワーク(TEEN)において、オンラインで事例発表し、シンポジストとして参加した。</p>
その他の活動	<p>1. 大学内でユネスコスクールの存在や意義について広く知らせることができた。</p>	<p>奈良女子大学と本学が法人統合するにあたり、本学が進めてきたESDの価値や幼稚園・小学校・中学校及び大学がユネスコスクールであることの意義を説き、新たにESD・SDGsセンターを設立した。</p>
	<p>2. 学部大学院の教育課程でユネスコスクールにかかわる教育を行うことができた。</p>	<p>ユネスコスクールに関わる授業を学部で9科目、大学院で1科目行った他、リニューアルする教職大学院にESDマネジメント領域を設置した。</p>
	<p>3. 調査研究活動でユネスコスクールに関連した調査研究を行うことができた。</p>	<p>していない</p>
	<p>4. 自由記述</p>	<p>2021年度はコロナ禍のため、学校の野外活動が中止になり、活動支援の機会が少なかった。大学生のユネスコスクール支援活動に関する報告を記す欄があればと思う。</p>